

かがやき

発行責任者 赤井 敏博
文責 中野 敦子

○あいさつ運動、生徒会&篠山市。

生徒会では11月から12月8日まで月曜日と木曜日に「元気のよいあいさつ」の啓発に向けて委員会・係別あいさつ運動を行ってきました。篠山市でも今週があいさつ運動強化週間となっています。

「あいさつは大切!」とよく言いますが、なぜでしょう? 「あいさつ」にどんな力があるのでしょうか。考えてみたことありますか?

「あいさつ」をすることで

- ・心が開くよ
- ・仲間が増えるよ
- ・健康にいいよ
- ・コミュニケーションがとれるよ

あいさつの秘訣

「あ」明るく元気に
「い」いつでも
「さ」先に
「つ」続ける



「あいさつ」する人のまわりには、自然に人と人が響きやすい雰囲気生まれ、空気が和らぎます。そして、人を受け入れ、人からも受け入れられやすいベース(基礎)が出来ます。「あいさつ」はすべての人を大切にしようとするスタート。
“人権の扉を開くもの” なんです。



○人権作文から考えてみましょう。(パートⅡ)

前号に引き続き、今回は大前さんの作文を掲載します。東北の震災から5年以上経過していますが、まだまだ考えなければならないことはたくさんあります。私たちに出来ること、考えてみてくださいね。

福島、風評被害について

1年 大前 莉子

先日、私の家に桃が届きました。産地は、「福島」と書いてありました。私は一瞬、箱を持ったまま立ち、じっと箱を見つめました。頭の中で、「福島産イコール大丈夫なのか?」という考えがぐるぐると回り不安な気持ちになり、気付いた時には母に「大丈夫なん? 食べるん?」と聞いていました。いわゆる「風評被害」です。

私が「大丈夫か?」と母にたずねた行動は自分の身の安全を守るために起こした行動です。気持ちの上では、福島の人々を応援したいという思いがあり、現におこづかいから募金をしていたのに、そう思った自分に驚きました。私は、いつも困っている人がいたら手を貸し平等な考えでいたい、加害者にはならないと思っています。しかし、そうならないと欲していても、知らず知らずのうちになっ

てしまっている事に気付きました。

母は、一度風評被害について少し調べてみたらと言いました。

まず、風評被害とは…

「根拠のない噂のために受ける被害」と書いてありました。そして、市場で流通している福島産の食材は、安全が確認されたものだけが流通しているので大丈夫だと書いてありました。その一方、福島産の食材は出来るだけ避けたい、安全が確認されていても、信用出来ないなどの情報がありました。情報は、テレビ、新聞、インターネットなど様々な所に転がっています。

福島農家や生産者の方がこの風評被害から、信用を取り戻そうと努力をし、どんな良い物を作っても、根拠のない噂のために受け入れてもらえない事があったり、値下げを余儀なくされたりしています。

私は震災以降、買い物に出かけても福島産の食材をほとんど見た事はありません。それは、私達が選択する前にお店側が「売りたいお客の反応、クレーム」を恐れて扱わないからだそうです。

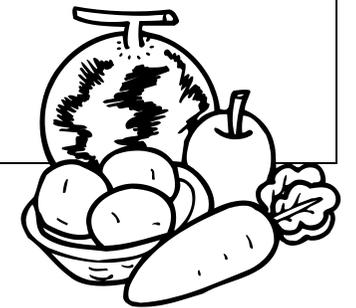
震災以降、人々は「福島」という言葉や文字に過剰に反応してしまっている様に思います。もちろん、関心を寄せる事は大事です。でも、今では、世界中の人々がチェルノブイリと同じ様に、福島の名を知ってしまっています。情報の一部だけを取り上げて、誤った知識を持つという事、噂というのはなぜか悪い事の方が目立ちます。

福島の農家の方達の所には、「汚染された物を出荷するな」や「お前らは殺人者だ」などの心ないメールが送られて来たりすることがあるそうです。このような事は、この土地で生まれ育ち、その地で一生懸命に暮らしている方達に対しての人権侵害だと思いました。

まず、身の安全、健康を守るという事はとても大切な事です。もし、そうしたいならば、正しい情報を取り入れ、正しい知識を身につけなければいけません。

地方自治体によっては生産物の放射線物質の計測結果を確認する事が出来ます。そのおかげか、今は市場価格も7、8割ほど戻っているそうです。

私達は、作る人と食べる人が互いに理解を深めあう事、また、誤った風評被害や情報にまどわされる事のないように過ごさなければならぬと思いました。これは、福島の話だけに限らず、どんな場合でもそうする事で人として正しい判断が出来、それぞれの人権が守れるのではないかと深く感じました。



]